

Catch Up 滋賀医大

2011.01.04 第13号



「乳がんの長期予後(再発・死亡のリスクなど)を予測できる指標の特定」について記者発表を実施

H22.12.14

本学 臨床検査医学講座が、大阪府立成人病センターと共同で、323名の乳がん患者さんについて解析を行った結果、タンパク質「RB1CC1」が乳がんの長期予後(再発・死亡のリスクなど)を予測できる指標であることを特定し、この度、臨床検査医学講座 岡部教授・茶野准教授の出席のもと記者発表を行いました。

通常、がんの治療においては5年生存率が治療成功の一指標とされていますが、乳がんでは治療を8～10年を行っても、再発や死亡に至るケースがあり、いつまで治療を行い、いつまで経過をフォローするべきかについての明確な科学的根拠ありませんでした。

「RB1CC1」は、通常、細胞核内に存在するタンパク質ですが、これが、細

胞核外に存在する場合や全く存在しない場合については予後が悪いということ、さらに、がん抑制分子として知られているタンパク質「RB1」及び「p53」と関連させ解析を行ったところ、この3者のうちどれかに異常がある場合においては、特に5年経過後の再発や死亡のリスクが高いことが明らかになりました。検査は、手術時や生検時に採取した病理標本を用いて実施できるため、新たに患者さんに負担をかけることはありません。

記者からの取材に対し、茶野准教授は「これにより、乳がん患者さんの5年以上フォローが必要かどうかの判断は科学的根拠をもってできることになった。患者さんにとっても医師にとっても負担の軽減につながると考えます。」と語りました。

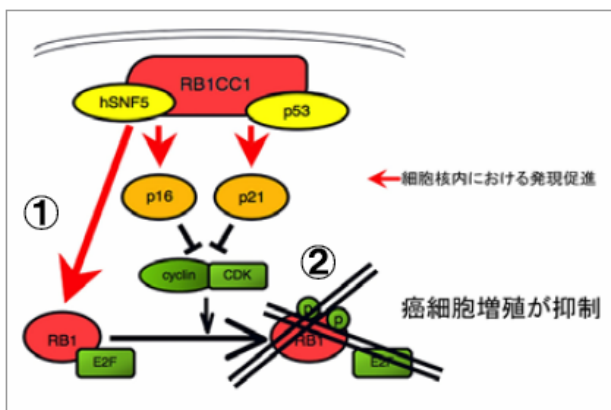


記者発表の様子



インタビューを受ける茶野准教授

【がん抑制に関する分子 RB1CC1 について】



①RB1CC1 は、がん細胞の増殖を抑えるブレーキとして働いている「RB1」を増やします。

②また、「RB1」のリン酸化(RB1 の変性・機能消失)を抑えます。



これにより、RB1 のがん抑制のブレーキ機能が強まり、がん細胞の増殖は抑止されます。

立命館守山高校と高大連携事業協定を締結

H22.12.02



握手を交わす
小畠校長(左)と馬場学長(右)

滋賀医科大学と立命館守山高等学校は12月2日、連携して生徒の教育を行う高大連携事業の協定書に調印しました。

立命館守山高等学校の生徒に、医療に関する大学の教育・研究に触れる機会を提供することにより、基礎医学や医療従事者の使命や働きがい等に関する講義を通して生徒の医療に対する理解を深め、主体的な進路選択に資することを目的とします。

平成22年5月より本学等において、フロンティアサイエンスコース1年生全員を対象に「医療関係者からの

講演会」や、同コース2年生の希望者を対象に、医療に関わる基礎的な内容の講義や実習を行う予定です。

調印式において馬場学長は、「地域に支えられ信頼される医療人を育成するために、地域の高校生が医学・看護学を身近に感じてもらえるような授業を実施し、地域医療の担い手を育てる一助になればと思う。」と語りました。

本学が県内高校と高大連携事業の協定を締結するのは、膳所高校、虎姫高校に次いで3校目となります。

「非燃焼型医療廃棄物処理機」の開発・導入について のプレス発表

H22.11.09

本学では、地元企業と共同で開発を行った「非燃焼型医療廃棄物処理機」を本年4月より導入・限定的に稼働させ、医療廃棄物処理を行ってきました。これは、医療廃棄物を燃やさず処理する世界初の装置です。約7ヵ月間の運用を経て、この度、本機について実機等を使いプレス発表を行いました。

本機は、医療廃棄物に一切触れることなく処理ができ、酸化チタン加熱により廃棄物を瞬時に分解・ガス化します。有害ガスはシステム内で中和処理され、音や臭いの問題もありません。また、従来に比べて31.3%以上のCO₂を削減できます。

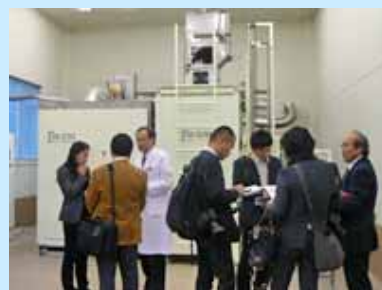
当日は、本学外科学講座の谷教授、三重大学の山本教授(本学非常勤講

師)が、熱触媒による分解のメカニズムや実用化に至るまでの経緯・改良点について説明を行いました。多くの報道機関に参加いただき、活発な質疑応答が行われました。

記者からの取材に対し、谷教授は「日々排出される医療廃棄物をなんとか大学内で処理できないかとの思いで開発をはじめました。思い描いていたことが現実となり、このように実用機を発表できたことを大変嬉しく思います。本機序の他産業への展開を支援していくとともに、今後は、ゴミをださない大学を目指す“ゼロエミッションプロジェクト”推進が具体化できます。また、本システムを地域社会に広げていく“グリーンイノベーション”に発展させていきたいと思っています。」と語りました。



医療廃棄物を燃やさず処理する
世界初の装置



熱心に質問される
記者のみなさん

業務改善ポスター発表会を実施

H22.10.01



最優秀賞を受賞した総務課

各部門における業務改善の取組状況を全学で共有し、さらなる業務改善に向けての動機付けとなるよう、また相互の改善に役立てられるよう、昨年に引き続き「業務改善ポスター発表会」を9月29日～10月1日に開催しました。

各部署がそれぞれ作成した業務改善事例ポスターを期間中掲示するとともに、10月1日午後2時から、発表者の説明及び全体討論会が行

われました。それを受け、学内外4名の審査員による審査が実施され、全15件のポスターの中から、各賞が以下の通り選出されました。

全体討論会では、「出来るだけ多くの人の参画意識を高める工夫と具体的数値でグラフ化し『見える化』を図ることが重要。」という意見がありました。今後もさらなる業務改善・サービス向上等に努めていきます。

最優秀賞	総務課「文書番号管理システム『BUN・BAN』の開発」
優秀賞	病院管理課「ITを活用した病院長のスケジュール管理」 治験管理センター「治験審査委員会(IRB)審議資料 削減大作戦」 患者支援センター「退院支援の早期介入」

「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」学生支援事業として宿泊研修を実施

H22.10.02～03

「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」の2010年度学生支援事業は、本学が主担当大学となり、新たに琵琶湖客船メグミを借り上げた1泊2日の研修を10月2・3日に実施しました。

この企画は、各大学の特徴を活かしつつ、地域住民との交流による地域理解、ボランティア活動等を通じた社会学習会的な学びの企画や学生が大学の垣根を越えて交流できることを目的に実施し、県内12大学の学生、職員総勢約70名が参加しました。

初日は快晴のもと、メグミ船内での本学服部副学長のあいさつに始ま

り、竹生島宝蔵寺見学の後、沖島では地引網、沖島巡り、清掃ボランティアの3企画に分かれて研修を実施した。また、この活動から得られた成果や滋賀の魅力や振興の提言を学生目線で行う成果発表会の企画を議論するなどの学生交流会が実施されました。

二日目は、琵琶湖博物館の見学を行い、滋賀県の自然環境や地域の理解を深め、午後には、JR守山駅で解散となりました。なお、12月上旬にこの活動から得られた成果を「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」地域連携事業として発表する予定です。



琵琶湖客船メグミに乗船



沖島での地引網体験

「科学研究費補助金に関する説明会」を開催

H22.10.04



日本学術振興会吉野課長
による講演

本学では、科学研究費補助金の申請件数、採択率、採択額の向上を図ることを目的として、9月30日と10月4日の2回に分け、「科学研究費補助金説明会」を開催しました。

第1回の説明会では、日本学術振興会より吉野明研究助成第一課長を講師としてお招きし、科学研究費補助金制度の最近の動向や、研究計画

調書作成上の注意事項などを詳細に説明していただき、多数の学内研究者が興味深く聞き入っていました。

また、第2回説明会では、生理学講座松浦教授、福井研究協力課長より、審査員に好印象を与える研究計画調書の具体的な記述方法などについて説明があり、最後には、参加者との活発な意見交換がなされました。

「“しが医工連携ものづくりクラスター”地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)キックオフ・フォーラム」が行われました

H22.10.13

財団法人滋賀県産業支援プラザと滋賀県が主催し、独立行政法人科学技術振興機構 JST イノベーションサテライト滋賀・滋賀医療機器工業会・滋賀医科大学等の後援で、「“しが医工連携ものづくりクラスター”地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)キックオフ・フォーラム」が10月13日に琵琶湖ホテルで行われました。

このフォーラムは、文部科学省から地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)の選定を受け、「しが医工連携ものづくりクラスター」として開始している事業の目標及び計画内容等について広く県内企業等に公表・普及することによ

り、産業応用への関心を高めるとともに、滋賀県における「医工連携ものづくりクラスター」形成の促進を図ることを目的に、多数の出席者で盛況に開催されました。

本学からは、このプロジェクトの共同研究テーマの説明として、生化学・分子生物学講座石田准教授が1グループを代表して「超微量生体標本分析技術が拓く高度先端医療の研究開発」について、外科学講座来見准教授が2グループを代表して「体腔鏡手術ロボティクス技術が拓く高度先端医療の研究開発」についての講演を行い、参加企業等多数の出席者が熱心に耳を傾けました。



生化学・分子生物学講座
石田准教授



外科学講座 来見准教授

がん医療に携わる医療従事者を対象に緩和ケア研修会を開催

H22.10.16~17



事例検討を行いました

国のがん対策推進基本計画および滋賀県のがん対策推進計画では、「がん診療に携わるすべての医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが目標として掲げられております。

この目標達成のため、滋賀県では、「滋賀県緩和ケア研修会標準プログラム」に基づき、がん医療に携わる医療従事者を対象に緩和ケア研修会を実施することとしており、この研

修会開催は本学が主催する地域がん医療の均てん化活動のひとつでもあります。

研修会当日は、学内外の医師・看護師 15 名が講義やワークショップ・ロールプレイを通して緩和ケアに関する知識を習得するとともに、明日からの臨床に活かせるような学びを得ることもでき、有意義な時間となったようでした。

第 24 回滋賀医科大学公開講座を開催

H22.10.21

10月7・14・21日の3日間にわたり、「がん・感染症を考えよう！」をテーマに、第24回滋賀医科大学公開講座を草津市立まちづくりセンターにおいて開催しました。

10月7日(木)は、泌尿器科 成田充弘講師、内科学講座(消化器内科) 藤山佳秀教授、小泉祐介助教

の講演が、10月14日(木)は、総合がん治療学講座醍醐弥太郎特任教授、病理学講座(疾患制御病理学部門)伊藤靖准教授の講演が、10月21日(木)は、皮膚科学講座 田中俊宏教授、立花隆夫准教授、中西元講師の講演が行なわれ、参加いただいた方々は各講師の講演を熱心に聴講しておられました。



講座は3日間にわたり実施

高校生らを対象に体験授業を実施

H22.10.23



約 70 名の方にご参加いただきました

本学では、平成15年度より、毎年学園祭(若鮎祭)の日程に合わせて、医学や看護学への関心を深めてもらえるよう、高校生を対象に体験授業を実施しています。

今年は去る10月23日(土)に、社会医学講座(衛生学部門) 埴田准教授を講師に「労働と健康」というテーマで体験授業を開催しました。当日は、県内外から高校生、保護者等合わせて約70名の参加がありました。

終了後のアンケートには、「衛生学」

という治療とは違った視点からみた医学に関して新たに興味がわいたという感想や、進路を考えるうえでの参考になったという感想が多数みられ、熱心に興味深く受講していただけたように感じられました。

また、パワーポイントのスライドを使用した講義は、高校生にも大変わかりやすくよかったと好評で、「滋賀医科大学に入学したくなった」という意見もあり、医療だけでなく本学に対する興味を高めていただけた良い機会となりました。

第36回「若鮎祭」(学園祭)を開催

H22.10.23~24

10月23日(土)と24日(日)の両日に第36回若鮎祭が開かれました。今年度は「彩(いろどり)」をテーマとしてメインステージでの様々な企画、サブステージも設置し、体育館、食堂でもダンスや美容ブース、教室を使った迷路など盛りだくさんの企画が行われました。フィナーレでは花火を使った感動的な演出がされるなど盛大に行われ、終了いたしました。

また、講演会には、教育者であり、中・高校生の方々の非行・薬物汚染・心の問題などを中心に活動されている夜回り先生こと水谷 修氏と、在宅での看

取りのあるべき姿を、講演や著作を通して広く世の中に訴えかけられている緩和ケア医の小澤竹俊氏のお二人をお招きしました。

23日(土)に行われた水谷先生の講演会場には、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。参加された多くの方々から、感動の声をいただきました。

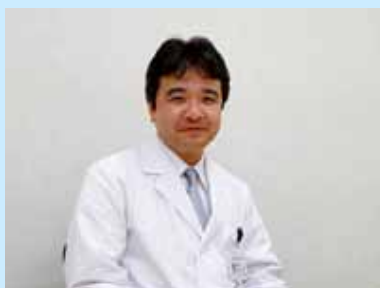
24日(日)の小澤先生の講演会では、医師や福祉関係の専門職の方々や、看取りを行っている当事者の方々など、幅広くご参加いただき、こちらも好評を博しました。両日の観客動員数は400名を超えました。



花火によるフィナーレ

「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動“臨床診断研究支援活動”」の統括班長に醍醐教授が就任

H22.10.26



「臨床診断研究支援活動」
統括班長 醍醐 弥太郎 教授

文部科学省 科学研究費補助金 新学術領域研究において、東京大学を中心として「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」が推進されることとなりました。

この活動は5つの支援活動からなり、その1つである「臨床診断研究支援活動」の統括班長に本学 総合がん治療学講座 醍醐 弥太郎 教授が就任致しました。

「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」は、研究者間の連携と交流を図るとともに、研究成果を診断・治療につなげていくというプロジェクトです。

本学では、国内のがん研究者の基礎研究で得られた新規がん臨床診断法の有用性の迅速な科学的評価・検証と実用化を支援してまいります。

第36回解剖体慰霊式を挙行

H22.10.28

10月28日(木)午前10時から本学体育館において、ご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員及び教職員・学生約600名の参列の中、厳かに第36回滋賀医科大学解剖体慰霊式を執り行いました。このたびは系統解剖40霊、病理解剖42霊、法医解剖87霊、計169霊を新たにお祀りし御霊のご冥福をお祈りしました。

慰霊式は、出席者全員で御霊に黙祷を捧げ、諸霊芳名拝誦、馬場学長及び学生代表による慰霊の辞、高橋しゃくなげ会理事長の献辞、出席者全員による献花が行われました。

最後に、ご遺族代表のご挨拶に続き、本学教授代表として病理学講座の小笠原教授から挨拶があり、閉式となりました。



出席者全員による
献花が行われました

外国人留学生等の宿泊見学バス旅行を実施

H22.11.02~03



ソーラーアークでの記念写真

去る11月2日(火)及び3日(水)の2日間、飛騨高山及び郡上八幡方面へ外国人留学生及び外国人研究者等の宿泊見学バス旅行を実施しました。

服部副学長、相浦国際交流支援室長らの引率のもと総勢30名、留学生等は家族を含め9割近くの者が参加しました。

初日は岐阜羽島の太陽光発電施設ソーラーアーク(Solar Ark)と、飛騨高

山まつりの森ミュージアムを見学、その後ゆっくり宿の温泉を楽しみました。

2日目は高山陣屋と陣屋朝市散策の後、郡上八幡にある世界で唯一の食品サンプル製作所いわさきでの食品サンプル制作体験を行いました。

日本情緒と最新技術を満喫することができ、参加者一同は大満足の宿泊見学旅行となりました。

第25回滋賀医科大学公開講座を開催

H22.11.15

11月1日・8日・15日の3日間にわたり、「高齢者の健康」をメインテーマとした第25回滋賀医科大学公開講座を草津市立まちづくりセンターにおいて開催しました。

11月1日(月)は、「高齢者の看護・介護」をテーマに、臨床看護学講座(クリティカル)遠藤善裕教授、(老年)太田節子教授、(精神)瀧川 薫教

授、(成人)宮松直美教授の講演が、11月8日(月)は、「あなたの腎臓はいじょうぶ? 防ごう慢性腎臓病」をテーマに、腎臓内科 宇津貴講師、血液浄化部 一色啓二助教授の講演が、11月15日(月)は、泌尿器科学講座 荒木勇雄准教授、整形外科 猿橋康雄講師の講演が行なわれました。参加された方々は、身近な話題の講演を熱心に聴講しておられました。



たくさんの方に
ご参加いただきました

平成22年度滋賀医科大学・膳所高等学校 高大連携事業の終了式を実施

H22.11.15



終了式の様子

この事業は、大学の教育・研究に触れる機会を提供するとともに、医療に対する理解を深めてもらうこと、また、視野をひろげてもらうことを目的としたもので、医学・医療等に興味のある膳所高校2年生を対象に、今年の4月より、「細胞が癌になるとき」、「医師の使命と働きがい」、「看護師の使命と働きがい」、「近未来型医療ナビゲーション外科とロボット手術」などの講義を実施してきました。また、夏休みには「ニワトリ肝臓の乳酸脱水素酵素の働きを測る」実験実習を行いました。

11月15日(月)には、最終回の講義として、臨床看護学講座 遠藤教授が「大腸癌治療の最前線」の講義を行い、引き続き、終了式を実施しました。

参加された41名の生徒の皆さんは、高等学校の授業終了後に本学を訪問し、午後4時過ぎから受講されていたにもかかわらず、90分間の講義を毎回熱心に聞き入っておられました。

平成22年度地震防災訓練等を実施

H22.11.19

11月19日(金)に緊急時通報訓練及び地震防災訓練を実施しました。緊急時通報訓練として、大学構内において爆発があり、職員2名が負傷したとの想定で、緊急連絡網による連絡訓練、災害対策本部の設置及び本部要員参集訓練を早朝より実施しました。

また、14時半からは、地震防災訓練として、琵琶湖西岸断層帯で発生した震度7の地震を想定し、初動態勢訓練、避難誘導訓練、初期消火

訓練、応急処置及びトリアージ訓練、情報伝達訓練等を行いました。

これらの訓練は、「滋賀医科大学防災マニュアル」及び「滋賀医科大学医学部附属病院防災マニュアル」に基づき、自らの安全を確保し、迅速な防災体制に移行する一連の対応行動を身に付け、防災意識の高揚を図ることにより、教職員、学生並びに附属病院における患者さん等の生命身体の安全を図ることを目的としたものです。



トリアージ訓練
(治療優先度により患者さんを振り分けます)

経営協議会外部委員が滋賀医科大学施設を見学

H22.11.24



シミュレーション装置の説明を受ける外部委員

本学では、経営協議会の外部委員に学内の施設案内を実施しており、前回4月28日の「動物生命科学研究センター」と「MR医学総合研究センター」施設見学に続いて、11月24日経営協議会終了後、附属病院内にある人体模型と実践的な医学教育・医療技術トレーニングができる機器を備えた技術訓練室「スキルズラボ」を見学しました。

馬場学長や医師臨床教育センター太田病院教授から、学生や研修医の各種シミュレータ・トレーニングについて説明がありました。

外部委員から、実際に研修医がトレーニングしている状況や手術室内に見立てた部屋を見学し、現実的な臨場感あふれる実習が行われ、現場に即したシミュレーションになっているとの声がありました。



シミュレーション装置



実習を行う研修医



手術部内に見立てた部屋

プライマリケア医を対象にした「琵琶湖プライマリケア・リフレッシャーコース(第4回)」を開催

H22.11.28



司会進行の三ッ浪教授

心臓血管研究所 山下先生
による講演
「心房細動に出会ったら」

去る 11 月 28 日(日)に、プライマリケア医の生涯学習促進を目的として、大津市のピアザ淡海を会場に、今年で4回目となる「琵琶湖プライマリケア・リフレッシャーコース～心房細動に出会ったら～」を開催しました。

このワークショップは、日頃、学生の診療所実習や全人的医療体験学習を受け入れていただいている診療所の医師を主な対象とし、プライマリケア医の日常診療に必要な知識や技術を最新化し、明日からの診療や学生指導に活かしていただくことを主な目的として実施したものです。

当日は、今回のテーマと同名の著書で大変有名な、心臓血管研究所常務理事・研究本部長の 山下 武志先生を講師に迎え、学長の挨拶の後、家庭医療学講座の三ッ浪 健一教授の司会・進行により、「心房細動に出会ったら」と題し、講演や質疑応答が

行われました。

山下先生の講演は、心房細動に出会ったら何をすれば良いのか、ワーファリンはどのように使うのか、どんな症例を専門医に送るのかなどについて、極めて明快に、重要なポイントをわかりやすく述べられるもので、受講者の評価は極めて高いものでした。

最後に設けた質疑応答の時間も十分に取ることができ、山下先生の説得力のある回答に全員が十分に納得して閉会しました。

来年度は平成 23 年 9 月 11 日(日)に神戸大学大学院医学系研究科感染治療学分野教授 岩田 健太郎先生を講師にお招きし、第5回リフレッシャーコースを開催いたしますので、今後ともご期待下さい。

クリスマスイルミネーション点灯式を実施

H22.11.30

附属病院では、玄関前のスペース等を利用して「クリスマスイルミネーション」を設置しています。この催しは看護広報活動推進委員会が中心となって、毎年実施している季節行事で、患者さん、地域住民の方々、病院スタッフに大変親しまれています。

初日となる 11 月 30 日の午後 5 時から、患者さんやご家族にもお集まりいただき、柏木病院長らによる点灯式を行いました。10 秒前からのカウントダウンの声にあわせて点灯ボタンが押されると、幻想的なイルミネーションが一斉に浮かび上がり、大きな歓声と拍手がわきおこりました。



点灯式での記念撮影

基礎・臨床融合の学内共同研究発表会を開催

H22.12.02



生城准教授による講演



小幡氏による講演

去る 11 月 29 日及び 12 月 2 日に「基礎・臨床融合の学内共同研究発表会」を開催しました。この学内共同研究発表会は、本学が進めている 5 大重点プロジェクト(1.サルを用いた医学研究、2.核磁気共鳴(MR)医学、3.神経難病研究、4.生活習慣病医学、5.地域医療支援研究)に続く独自のプロジェクトとして、基礎・臨床の融合した研究を推進するものです。

11 月 29 日の第 1 回研究発表会では、「UDP - グルクロン酸転移酵素遺伝子多型による薬剤代謝への影響と副作用発現の予測のための研究」を研究テーマとし、病理学講座(疾患制御病理学)の小笠原一誠教授の司会・進行のもと、富山県立大

学工学部の生城真一准教授、小児科学講座の丸尾良浩講師、薬剤部の寺田智祐教授にそれぞれ講演をしていただきました。

12 月 2 日の第 2 回研究発表会では、「腸内疾患と生活習慣病との関わり」を研究テーマとし、(財)微生物化学研究会の小幡徹氏を講師としてお招きし、「新しい高感度エンドトキシン測定法の開発“それで何がわかるのか”」と題し講演をしていただきました。

今年度には、第 3 回(イオンチャネルの遺伝子異常と遺伝性不整脈の発症)を 2 月 2 日に開催することとなっています。

第 53 回滋賀医科大学管弦楽団定期演奏会

H22.12.04

12 月 4 日(土)14:00 より、栗東芸術文化会館さくら大ホールにて、本学卒業生 岩井一也 氏(音楽監督)の指揮により、第 53 回滋賀医科大学管弦楽団定期演奏会が実施されました。

演奏会では、チャイコフスキー・交響曲第 1 番、ワーグナー・歌劇「タンホイ

ザー」より大行進曲、シベリウス・カレリア組曲が演奏されました。

当日は、満員に近い来場があり、大盛況の中で行われました。また、開演前にはロビーにてミニコンサートも行われました。



盛況な演奏会となりました

六医科大学合同新技術説明会が開催されました

H22.12.09



説明会の様子

本学・浜松医科・旭川医科・札幌医科・関西医科・聖マリアンナ医科の六医科大学とJST(独立行政法人科学技術新興機構)の主催で、12月9日(木)東京・市ヶ谷のJSTホールで、六医科大学合同新技術説明会が開催されました。

本説明会は、企業関係者を対象に実用化を展望し、ライセンス可能なテーマの技術説明を行い、広く実施企業・共同研究パートナーを募るものです。

本学からは、生化学・分子生物学講座(分子生理化学)石田 哲夫准教授が「直接測定によるタンパク質の結合機能診断と創薬支援」と題して研究内容を発表致しました。

この説明会の参加企業 60 余社は、大学発のライセンス可能な特許内容の説明に、熱心に聴き入りました。その後、発表者と聴講した企業との情報交換の場が持たれました。

翌 10 日(金)は、六医科大学情報交換会が行われ、本学からは、平野 正夫産学官連携コーディネータ(特任教授)が、本学の「5 つの重点プロジェクト」を中心に、大学の紹介や産学官連携への取り組みなどの紹介をしました。

その後、知財、産学連携等に関する活発な意見交換会が行われ、有意義な情報交換の場となりました。

「大学を支える人材を育むための宿泊研修」を実施

H22.12.17-18

昨年度に引き続き、12月17日(金)～18日(土)に「大学を支える人材を育む宿泊研修」を長浜ロイヤルホテルにて開催しました。研修には役員と教職員計 78 名の参加があり、講演・グループディスカッション・全体討議等を行いました。

今年度は、昨年度の参加者からの意見を反映し、管理職の教職員だけでなく、准教授・講師、係長クラスの職員までを参加対象者とし、若い世代にも本学の課題について考える機会を提供することにより、教職員一丸となって積極的に課題に挑戦する土壌作りに努めることができました。

初日には、馬場学長から「国立大学・医学部の行方は？」と題した講義が

行われ、また、立命館アジア太平洋大学副学長 本間政雄先生から、教職協働の在り方や大学改革などについてご講演をいただき、全体討議においてもコメントをいただきました。

全体討議では、グループディスカッションで話し合った、人材育成戦略への提言、組織の活力の発揮と幸せな働き方の実現、滋賀医大にかけの夢などといったテーマについて発表があり、様々な提案に対して意見交換を行いました。様々な提案に対して、大学として検討を加え、具現化に向けた取り組みを進めていくこととしています。



グループディスカッション



全体討議の様子

地域イノベーションシンポジウム in 東京が開催されました

H22.12.21



パネルディスカッションの様子

文部科学省の主催で、12月21日(火)東京都新宿区日本青年会館で「地域イノベーションシンポジウム in 東京～地域発ライフイノベーションの創出に向けて(メディカルサイエンス分野)～」が開催されました。

このシンポジウムは、各地域がイノベーションを推進する研究分野のうち、代表的なメディカルサイエンス(医療機器・医薬品等)分野における各地域間のネットワークの強化を図り、ライフイノベーションを効率的に創出する方策を探ることを目的としています。

地域の産学官関係者(産業界、大学等、行政、支援機関等)が一堂に会し、これまでに実施してきたクラスター関連事業の成果の共有化を図り、国際競争力を有するイノベーションを創出する上での課題や障害及び今後の在り方等を議論しました。

本学からは、外科学講座・学長補佐(産学連携担当)の谷 徹 教授が、びわこ南部地域研究副統括のパネリストとして、パネルディスカッションに参加し、滋賀県におけるイノベーションシステム整備事業の「いつでも・どこでも高度先端医療」技術の事業化等について、発表を行い、活発な意見交換が行われました。

附属病院 院内クリスマスコンサートを開催

H22.12.22

12月22日(金)午後5時から附属病院D病棟6階の展望レストランにて、恒例のクリスマスコンサートを実施しました。

これは本学卒業生の野澤正寛先生と同志により毎年開催している入院患者さんを対象としたイベントで、今年で9回目となりました。

当日は約150名と過去最多の来場

者があり、「ここは病院ということを忘れられるひと時を」という主催者の思いのもと、「クリスマスソング」、「トロロ」、「NHK連続ドラマ-てっぱん-のオープニング曲」が演奏され、最後には「ふるさと」を来場者全員で合唱し、涙される方も見受けられるような感動の雰囲気の中、コンサートは終了しました。



多くの来場者であふれる会場

平成 23 年 1 月 ~ 3 月の行事予定

- 1 月 15・16 日 大学入試センター試験
- 1 月 17 日 「バイオ医療学」市民公開講座「人体の不思議 - ヒト脳の 3D 構造 - 」
- 2 月 19 日 市民公開講座「自分でできる生活習慣病の予防」
- 2 月 25・26 日 一般選抜試験
- 3 月 10 日 卒業式

大学概要



所在地：
〒520-2192
滋賀県大津市瀬田月輪町

開学：
1974年10月1日

活動内容：
教育・研究・診療

役員：
学長 馬場忠雄
理事（教育等） 服部隆則
理事（医療等） 柏木厚典
理事（経営等） 村山典久
理事（総務等） 谷川成美



担当

企画調整室

TEL: 077-548-2012
FAX: 077-543-8659

本学 Web サイト URL:
<http://www.shiga-med.ac.jp/>

E-MAIL:
hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

報道された滋賀医科大学 (平成 22 年 10 月～平成 22 年 12 月)

教育関係

2010/12/18	産経	滋賀県内 13 大学・短大が連携「大学立国」さらに活性化
2010/12/02	各紙 (2 紙)	長浜バイオ大の副学長に三輪氏.
2010/11/25	朝日	生活保護家庭の子らに「個別指導」 勉強あきらめないで
2010/10/25	産経	学生マンションの郵便受け燃える
2010/10/08	朝日	滋賀医科大学学園祭講演会

研究関係

2010/12/27	産経	乳がん再発リスクを予測.
2010/12/19	読売	乳がん再発予測 たんぱく質で 滋賀医大が基準発見
2010/12/16	毎日	コレステロールを考える「高いと長生き」巡り論争
2010/12/15	各紙 (3 紙)	乳がん再発 細胞に予兆 滋賀医大 手術時に検査可能.
2010/12/15	日経	滋賀医大が手法 マーカーが特定 乳がん再発 可能性判定.
2010/12/07	読売	熱触媒で医療廃棄物処理
2010/11/18	読売	超小型ロボで病気治療
2010/11/10	各紙 (3 紙)	火使わず医療ごみ処理 滋賀医大 実用化に成功.
2010/11/10	各紙 (2 紙)	医療ごみの処理 高温触媒で分析
2010/11/10	日経	医療廃棄物を燃やさず処理
2010/10/25	日経	アルツハイマー病薬効を簡易測定
2010/10/21	京都	医工連携 湖国発ビジネスへ
2010/10/01	毎日	日系ブラジル人サポート 母子保健マニュアル

病院関係

2010/12/21	産経	東近江総合医療センター 滋賀病院敷地に建設
2010/12/16	読売	東近江市総合医療センター 病棟建設 市負担 20 億円
2010/12/11	京都	良い眠りで元気(6) 睡眠でワクチン効果 病気の回復に不可欠
2010/12/10	中日	東近江総合医療センター 基本協定書案を報告
2010/12/09	京都	2 医療施設で連携を 草津 小児救急見直し提言
2010/12/05	読売	病院の実力 37 腰・首の手術
2010/12/05	読売	正しい姿勢で予防 滋賀医科大 大学付属病院 猿橋康雄・整形外科外来医長
2010/11/22	朝日	体とこころの通信簿 飛蚊症
2010/10/29	京都	父も子育て「平和な家庭」・・・潜む危険
2010/10/28	毎日	がん患者に語る場
2010/10/28	日経	もっと知りたい 糖尿病対策 そして、ジェネリック医薬品
2010/10/08	京都	県立養護学校の分教室 滋賀医大に設置要望
2010/10/04	産経	家庭と健康 腸内細菌のお話.
2010/10/03	読売	病院の実力 35 大腸がん

社会連携

2010/12/07	中日	うつ病理解を医師が講座
2010/12/05	中日	滋賀医科大 医師育成へ連携 立命館守山高と協定締結
2010/12/05	守山市民新聞	高大連携に調印 立命館守山と滋賀医大.

2010/10/31	中日	市民ら健康的な睡眠の取り方学ぶ
2010/10/20	朝日	大津市で睡眠講座 医師会が質問募集
2010/10/08	産経	第4回滋賀県脳卒中市民公開講座
2010/10/01	読売	第4回県脳卒中市民公開講座

管理運営

2010/11/07	京都	国立大中間目標 達成は「順調」 09年度評価
------------	----	------------------------

その他

2010/12/15	中日	男女共同参画 県内大学いま一つ 18日に近江八幡 推進 へ向け講演会.
2010/12/01	朝日	平成22年度医学教育等関係業務功労者文部科学大臣表彰.
2010/11/25	京都	平成22年度援護事業功労者厚生労働大臣表彰